

羅臼湖の利用のあり方について（案）

1．経緯

- 平成 21 年 10 月 関係行政機関および地元関係団体による合同巡視
平成 21 年 12 月 羅臼湖の利用のあり方に関する意見交換会
平成 22 年 3 月 知床国立公園の保護と利用に関する意見交換会（羅臼地区）

2．検討の方向性

知床半島中央部地区利用適正化基本計画に記載されている取り扱い方針の実現のための具体的な方策を検討する。

エコツーリズム等の視点を考慮した検討を行う。

行政機関や地元関係団体の役割や実施すべき事項について検討を行う。

3．関係行政機関による今年度の取組予定

<環境省釧路自然環境事務所>

- ・歩道の現況把握と脆弱箇所の抽出
- ・カウンターデータや入林簿の解析
- ・利用者およびガイド事業者へのアンケート
- ・路上駐車状況の実態調査

<北海道森林管理局>

- ・入林箱及び入林簿の設置
- ・事業施設（歩道）の現状把握
- ・歩道沿いの植生の定点観測
- ・森林情報ポスの取組

<北海道根室総合振興局>

- ・事業施設（木道）の現況把握と整理

4．個別会合における検討の進め方のイメージ

適正利用・エコツーリズム検討会議構成員のうち、知床羅臼町観光協会、羅臼町・知床世界自然遺産協議会、知床ガイド協議会、（財）知床財団、知床エコツーリズム推進協議会、羅臼山岳会、釧路開発建設部、北海道警察釧路方面本部、羅臼町を参画の対象とし、検討を実施する。会合の議事進行は事務局が実施し、適正利用・エコツーリズムWG委員には可能な範囲でご参加いただくこととする。羅臼湖の利用のあり方に関する課題への対応は本個別会合に一任することとし、全体会合へ検討結果を報告するとともに、必要に応じ助言を受けることとする。

第 1 回羅臼湖個別会合（平成 22 年 10～11 月頃を想定）

- ・利用動態や歩道の現況等に関する調査結果の報告
- ・エコツーリズム等の視点を考慮した望ましい利用のあり方や具体的な方策の検討

第 2 回羅臼湖個別会合（平成 23 年 1～3 月頃を想定）

- ・望ましい利用のあり方と具体的な方策に関する合意形成
- ・各主体の役割と実施すべき事項の検討